

ドキュメンタリー映画『Journey to be continued — 続きゆく旅 —』上映会とトークイベント

— 岐阜県可児市の取り組みから —

各務眞弓（NPO 法人可児市国際交流協会 事務局長）

田室寿見子（映画制作、演劇ユニット Sin Titulo 代表）

2024・10月19日（土）

14：00 開会（13：30 開場）

入場料 500 円

ともに生きる社会を

ヘイトスピーチと人権に関するシンポジウム — 差別の構造と表現の不平等 —

金尚均（龍谷大学法学部教授）

ヘイトスピーチとインターネット

師岡康子（弁護士、外国人人権法連絡会事務局長）

反人種差別政策と法制度

2024・10月20日（日）

15：50 開会（15：20 開場）

入場料 500 円

会場 川口市 SKIP シティ 彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール（埼玉県川口市上青木 3-12-63）

主催 在日クルド人と共に

ともに生きる社会を

日本には約 342 万人の在留外国人が暮らしています（2023 年末現在）。そのうち永住者は在日コリアンを含め 120 万人近くです。人口減少が進む中、労働を担う在留外国人は増え、日本で生まれ育った外国籍の子どもも増えています。

このように日本はすでに移民社会です。しかし、政府は「移民政策は取らない」姿勢を取り続けており、実態を認めようとしません。外国籍住民に対する日本語教育を含む公的支援がほとんどないため、当事者が社会から孤立してしまうことも多く、これからの社会統合の展望を見出すことは困難です。

川口市は日本でも外国籍住民が多い自治体ですが、言葉や文化の違いから地域社会で生活上のトラブルが起きているのも事実です。トラブルの解決には偏見を排し、事実の確認と分析、相互の理解と歩み寄りが必要です。同時に人権を守るための差別的言動を許さない取り組みが不可欠です。

私たち「在日クルド人と共に」は、埼玉県南部に暮らすトルコ国籍のクルド人と交流を重ねてきました。今回の企画では、外国籍住民が多い岐阜県可児市の「多文化共生」の取り組みに学ぶと共に、ヘイトスピーチと人権の問題について考えます。ぜひ皆さんご参加ください。



バスで越しの場合

■川口駅東口

7番のりば
[川119] 戸塚安行駅行き
川口市立高校 下車
[川120] 東川口駅南口行き
川口市立高校 下車

8番のりば

[川123] 医療センター經由新宿駅行き
川口市立高校 下車

9番のりば

[川118] 川口市立高校經由鳩ヶ谷公園住宅行き / 川口市立高校 下車

■西川口駅東口

5番のりば
[西川108] 上青木循環行き
川口市立高校 下車
[西川109] SKIPシティ經由鳩ヶ谷駅西口行き / SKIPシティ・SKIPシティ東 下車



【10月19日】

ドキュメンタリー映画『Journey to be continued
— 続きゆく旅 —』上映会とトークイベント
— 岐阜県可児市の取り組みから —

13:30 開場 14:00 開会—17:00 閉会
入場料 500 円

【トークゲスト】

各務真弓（NPO 法人可児市国際交流協会 事務局長）
田室寿見子（映画制作、演劇ユニット Sin Titulo 代表）

映画『Journey to be continued - 続きゆく旅 -』

2017 年 / 67 分

外国人住民が多く暮らす岐阜県可児市。ブラジルやフィリピンにつながる若者が巨大なキャンパスに心象風景を描き、絵の意味を説明する。日本の生活で直面する困難、学校への違和感、家庭内での自分の役割、仕事や将来の夢を語る。企画の当初は、海外ルーツの若者の性教育のためのコンテンツを作る案だったが、監督の岩井成昭・秋田公立美術大学教授が美術表現を用いた独自のアプローチで、彼・彼女らとの対話を試みる映画の撮影に転換した。

監督：岩井成昭 監督補佐：西村明也 制作：Sin Titulo 田室寿見子 製作：NPO 法人可児市国際交流協会 助成：一般財団法人自治体国際化協会 / 可児市

【10月20日】

ヘイトスピーチと人権に関するシンポジウム
— 差別の構造と表現の不平等 —

15:20 開場 15:50 開会—18:30 閉会
入場料 500 円

◎ヘイトスピーチとインターネット

金尚均（龍谷大学法学部教授）

山口大学経済学部講師、西南学院大学法学部助教授をへて現職。専門は刑法。主な著書に、『インターネットとヘイトスピーチ』（明石書店）、『差別表現の法的規制』（法律文化社）など

◎反人種差別政策と法制度

師岡康子（弁護士、外国人人権法連絡会事務局長）

東京弁護士会外国人の権利に関する委員会委員、大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員。主な著書に、『ヘイト・スピーチとは何か』（岩波書店）など

◎シンポジウム

金尚均、師岡康子、Vakkas Colak（日本クルド文化協会）、Eri（解体業従事者）、温井立央（在日クルド人と共に）

